



『We♥鏡中』

令和8年8月4日

☆彡 令和8年熊本地震 災害ボランティアに参加して

8/3(月)、令和8年熊本地震で「震度7」の揺れにみまわれた熊本県宇城市に災害ボランティア活動に参加しました。(災害ボランティアは令和5年の平原・七山の水害時に3回参加して以来、3年ぶりの参加です)

8/2の夜に、宇城市社会福祉協議会が8/3の災害ボランティアの受付を始めたことを知り、すぐにボランティア保険に加入し、災害ボランティアに申し込みました。

朝6時に家を出て、多久 IC から松橋 IC まで高速道路を使いました。高速道路が渋滞し2時間40分ほどで受付場所の熊本県博物館ネットワークセンター多目的広場に到着しました。

受付をして、オリエンテーションを受けるためにテントで待って9時からオリエンテーションを受けました。物資搬入及び段ボールベッド設営等と案内されていましたが、急遽、災害ごみ(粗大ごみ、不燃物、廃家電等)の荷下ろしと分別の仕事を男性10人でしてほしいと言われ、宇城クリーンセンターで活動しました。

7/31 から災害ごみの受け入れをされており、写真のとおり仮置き場に山積みになっています。

様々な方が災害ごみを持ち込まれました。多くの方から荷下ろしを手伝った際に「ありがとう」と言ってもらい恐縮しました。ひざ下にステンレスの補助支柱をつけた装具(金属支柱付き短下肢装具足)をされた足の不自由な方から、荷下ろしを手伝った際に「ありがとう」と言っていたことや耳の不自由な年配のご夫婦の荷下ろしを手伝った際に頭を下げてくださいましたことは特に印象に残っています。



また、一緒にボランティア活動をした10名の皆さんの参加された動機では、10名中6名が近隣の方で、「10年前の熊本地震の際に被災して大変だったが、今回、自分のところは被害がなかったので、少しでも役に立てば…」と言われる方が多かったです。他県の県立高校の教職を退職された(私より3~4歳年上?)方は、「何かの役に立てばと思って…」と5時30分に自宅を出て、3時間かけて参加されていました。関東の方もおられ、「仕事で熊本に来ていたが、地震で3日間の仕事がキャンセルになったので、その空いた時間で何か役に立つのならと思って参加した」と言われていました。20代前半の方は「10年前に熊本地震で被災し、その経験から大学時代からボランティア活動を始め、仕事についた今も時間があればボランティア活動に参加している」と言われていました。(最後に集合写真を撮った際、私は学校に勤めていて、写真や今回の活動のことを生徒に紹介して良いかとお尋ねし、了承を得ました。)



消防団の方々も一緒に活動しましたが、消防団の方が活動の最後に集合され「市民の皆さんの生命と財産を守るのが私たちの使命。今回、被災された方もおられると思うが、市民の皆さんのために今後も協力を！」と話されていたのも印象的でした。被災者でありながら、被災者を助ける仕事をするのは大変だと思うので、被災していない自分が少しでも力になれるのならと感じました。

ボランティア活動に参加して、社会のために、他人のために、自分に出来ることを実践される方々の存在(しかも、それが当たり前であるかのように…)を目の当たりにして、生徒に対して「気づき 考え 行動する」ことの大切さを訴えている自分自身の振り返りとなりました。